

松波むかし語り ここに生き続けて **その 16**

今回のお客様

おはやしの屋台を乗せて10年、夏祭りの顔

長谷川一彦さん 53歳 2丁目

“私がトラックの運転をしてから、一度も雨で中止になったことがないんです。晴れ男ですね。”

—長谷川さんは商工振興会の副会長でもあります。町内唯一の金物屋の商売や、松波の商店のことなどがいました。



松波の夏祭りと言えば、御輿を先導しておはやしの屋台を運ぶトラックを運転する長谷川さんの顔があります。すっかり夏祭りの顔になってしまいましたね？ 「それまでは、公民館前の佐藤八百屋さんがトラックを出していたのですが、商売を閉じたので私が引き継いだのです。もう10年ほどになるかと思います」。そうですか、何か印象に残ることがありますか？ 「そうですね、幸い、私が担当してから一度も雨で中止になったことがないことですか」。“晴れ男”なんですね。これからも長谷川さんをお願いすれば、お天気の心配はしないで済むかも知れません。

ところで長谷川金物店という、今は町内唯一の金物屋さんですね？ 「そうなんです。以前は何軒ありました。金物屋を始めたのは祖父が大工だったからで、父の兄弟はみんな金物を商売にしました」。長谷川さんは二代目ですね？ 「そうです、父が始めて、私がこの仕事をするようになったのは24歳でしたから、もう30年近いです」。昔と今とでは売れるものが違って来たのではないですか？ 「いまは、『家を建てるのに大工はいらない、電動ドライバー1本あればできる』とも言われます。それで以前は、筋交い金具などの建築金具だとか、台風シーズンになると針金や釘が売っていたのですが、いまは家も丈夫になって、外から板を打ち付けることもなくなりましたね。代わりに売れるようになったのが土のうの袋や、雨樋だけは変わらず売れます」。業務用の厨房用品のお店もありますね？ 「あれは親父が『カップ橋（浅草にある厨房用品の店が集まった商店街）を千葉にもつくる』と言って始めました。遠く、東金あたりからも買いに見えます」。そうですか、お客さんからは重宝されているんですね。

長谷川さんはこの街で育ちました。「昔は、街の中にいろいろなお店があって、町内で子どもが楽しく遊べました」。以前は、西千葉駅前から松波ストアにかけて、お店が並んでいましたからね。「私の店から西千葉にかけても、酒屋・洋品店・魚屋・八百屋と並んでました。松波のメインストリートがもう一つにぎやかになれないのは、片側が東大や千葉商という学校に面しているからです。商店街は、両側にお店が並んでないとにぎやかな感じがしないものです」。



長谷川さんは松波商工振興会の副会長も務めていて、街と商店の関係についても一家言おありです。これからも町内の発展のため力を尽くしていただきましょう。



昭和40年頃の松波交差点
後方は松波ストア